

# 六所皇大神宮靈跡縁起

六所神社は関東唯一の名社にして筑波神社と同一社なり 古来里の宮御座替りの宮と称し筑波の祭事を執行せし神社なり 全社は往古伊勢神宮の分社として遠近臣民の崇敬深く 伊勢大廟の代拜所となせし由緒赫々たる靈域なり 人皇九代開化天皇十八年正月勅あり 夏冬の祭日を定めらる 夏至と冬至は山上の宮と里の宮との神靈遷座の式を行い 里の宮の天照大神の更衣を執行し奉る 神御衣祭なり 神社は歴代天皇の崇敬深く 人皇十三代成務天皇の朝 忍凝見命の孫阿閑色命筑波国造に封せられ 祭政一致の政務に基き奉仕せし以来大化二年の新政發布に到る迄其子孫奉仕せられたり 降て人皇五十代桓武天皇の朝 延暦十年 征夷大將軍阪上田村麿 奥州を征討し 凱旋奉告の際 社殿を造営し 大同二年 寶庫を建立し 全將軍は石材大華衣を奉献す 斯る由緒歴然たる六所神社と 領主領域の交替と世の変遷と共に筑波神社と分離し 加え氏子の大半は筑波神社に編入せられ 神社の維持困難に陥り 日本一社の称ある蚕影神社に合祀し 輪換の美を極めたる社殿を始め 寶庫隨神門及其他を破壊し 遂に此畏き靈跡は荒廢に歸したり 予大正四年 旧三月此所に巡拜し 神域の荒蕪に化し了りたるに驚嘆し 茲に靈跡の再興を主唱し 本會の所管となして靈跡保全の工事を施し 大正四年旧八月十五日其式典を挙行し 尚 神光不滅の爲め會員と相謀り 昭和二年 此碑を以て後世に傳う

# 修 德 碑

翫照修德會々長 翫照 高木福太郎 謹誌

全 會 員 可園 山上 隆充 拜書